

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式											
M212S401		小児看護学実習 (Clinical Practice of Child Nursing)					小児看護学													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態												
必修	2	4	医学部看護学科	前期	他	日本語		複数(共同)												
担当教員	氏名 幸松美智子・江藤千晴																			
	E-mail yukimats@ 内線 5075																			
授業の概要	健康障害や入院が小児およびその家族に及ぼす影響を理解した上で、 小児の成長発達段階に応じた適切な看護援助が実施できる基礎的な知識と技術および態度を養う。																			
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	看護学生として実習で学ぶべきことを明確にし、実習に積極的に取り組むことができる												○		○				○	
目標2	子どもや家族の心情を理解し、病室が患者や家族にとって個人の生活の場であることを考慮した配慮や心配りができる												○	○	○	○			○	
目標3	子どもや家族が置かれた状況を理解し、意図的なコミュニケーションをとることができる												○	○	○	○			○	
目標4	受け持ち患児の病態、検査、治療について理解し、健康上の問題を明確にすることができる												○	○	○				○	
目標5	入院生活や健康障害が子どもや家族の生活に与える影響を理解し、看護上の問題を解決するための看護過程の展開ができる												○	○	○				○	
目標6	看護過程の展開の中で個別に応じた看護を実施し、その学びを通じて個別看護の創造と看護の責任について説明することができる												○	○	○					
目標7	入院生活や健康障害が小児の成長発達に与える影響を理解し、成長・発達を促進するケアの実践ができる												○	○	○					
目標8	在宅や地域で円滑に生活ができるよう継続看護の視点を看護実践に活かし、支援や他職種との調整ができる												○			○	○			
目標9	医師やコメディカルとの協働を通して、保健医療チームの一員として看護職の果たすべき役割を理解し、説明できる												○	○		○	○			
目標10	実習を通して、看護職の持つべき姿勢や態度、果たすべき役割や責務について説明できる															○		○	○	
各DPへの関連度 (計10)													4	1	1	1	1	1	1	
授業の内容																				
1	2週間の実習期間中、ひとりの病気や障害をもつ子どもを受け持つ(複数の場合あり)																			
2	看護過程の展開(アセスメント・問題点の抽出・計画の立案・実践・評価)を実践する																			
3	看護過程の展開を通じて対象の健康回復、維持、増進を図る																			
4	成長・発達を支える個別的看護を創造する																			
5	病児の家族も看護の対象と捉え、支援する																			
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認		学生自身が立案した看護計画に基づく看護実践や実施したケア毎の記録(SOAP)を介して、マニュアルから個別看護を創造するプロセスが辿れるよう支援し、看護がアートであることを体験できるようにする。					工 夫 そ の 他 の	テーマカンファレンスを実施することにより、自己の曖昧な認識や感情に気づき、真理を追究することの意義を考えられるよう支援する											
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		日常生活支援に必要な最新の知見や研究データを収集し、EBNに基づいた看護実践ができるよう準備する。また、授業資料や教科書で小児看護学の復習をしておく(45 h)																	
	事後学修		日々の看護記録(SOAP)により自己の看護を振り返るとともに、気づきや疑問点についてカンファレンスを用いた理解や理論・最新の知見を調べて深く追求する(45 h)																	
	想定時間合計		90																	
教科書	中野綾美【編】：ナースングラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①、メディカ出版、2022年 中野綾美(編)：ナースングラフィカ 小児看護技術 小児看護学②、メディカ出版、2022年																			
参考書	その都度提示する																			

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	看護過程の展開		80%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学習意欲・態度		20%	○	○								○
注意事項	感染症の罹患は、その軽重に関係なく患児との接触が許可されないため、体調管理に留意する。 また、麻疹・風疹等の抗体獲得状況について確認し、未獲得の場合は早めに相談すること。												
備考	小児看護の文献は看護学科棟5階の小児看護学研究室にもあるので使用の際には教員に申し出ること												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無	○												
教員の 実務 経験	幸松美智子（看護師）、江藤千晴（看護師）												
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	附属病院4階東病棟（小児科病棟）看護師												
実務経験を いかした教 育内容	臨床における最新の小児医療や小児看護の知識・技術に基づいた実践能力を習得する。 学生が将来就く職業におけるロールモデルとして機能することで、小児看護に対する看護観の育成や小児医療における職業倫理の獲得を図る												